

Topics

**「荒川区障がい者
スポーツフェスティバル」が
開催されました**

2月16日、首都大学東京荒川キャンパス(現:東京都立大学荒川キャンパス)で、荒川区障がい者スポーツフェスティバルが開催されました。これは、「東京2020パラリンピック競技大会」を見据えて、障がい者スポーツを知ってもらうとともに、年齢や障がいの有無に関わらず、誰もが楽しめることを目指したスポーツイベントで、今回で5回目の開催になります。

イベントでは「みる」「きく」「する」を柱に、アスリートと一緒にプレーできるシッティングバレーボール体験会や、3人から6人の小学生チームで優勝を目指すポッチャ小学生大会に加え、トークショーも開催。大盛り上がりを見せた今回のイベントもたくさんの方が会場に足を運んでいました。



▲西川区長のあいさつでイベントがスタート!



▲スポーツ用義足についての話が聞けました



▲義足で歩くのは難しいね

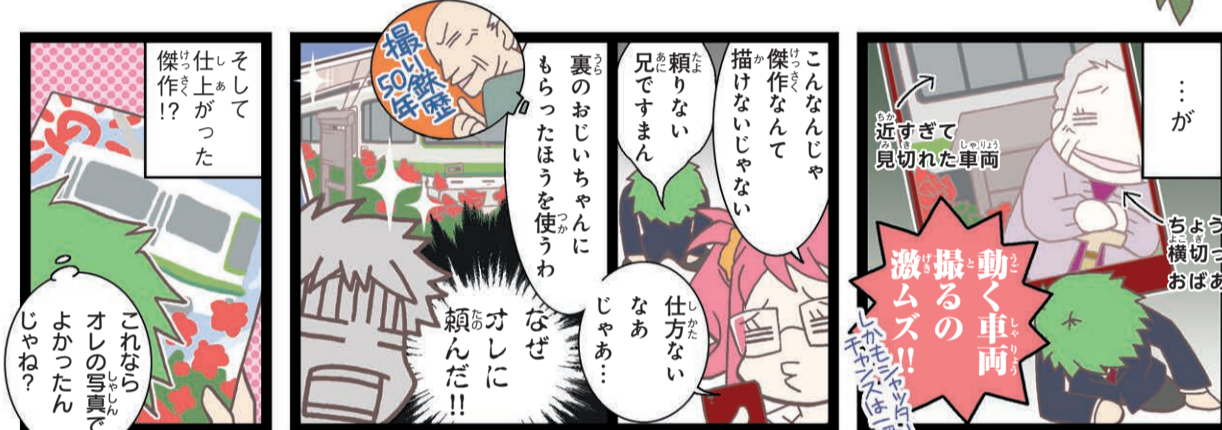
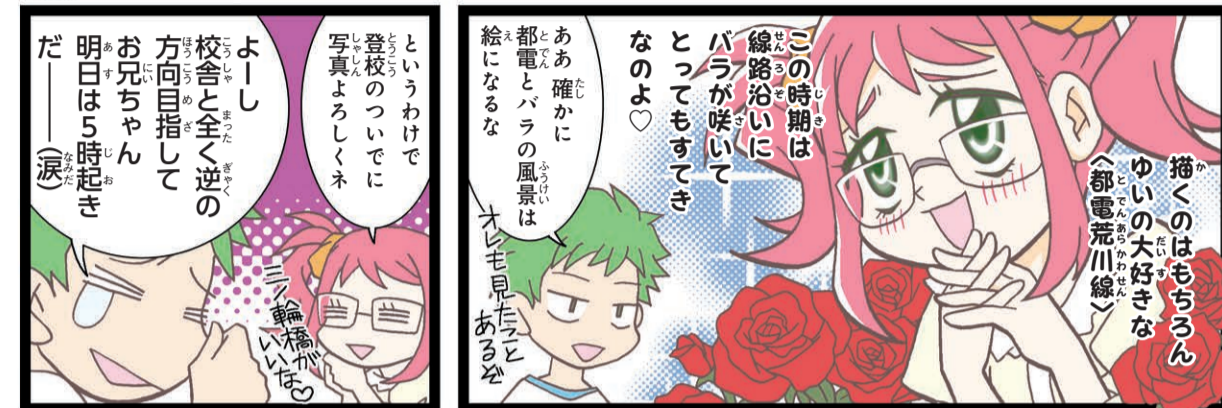
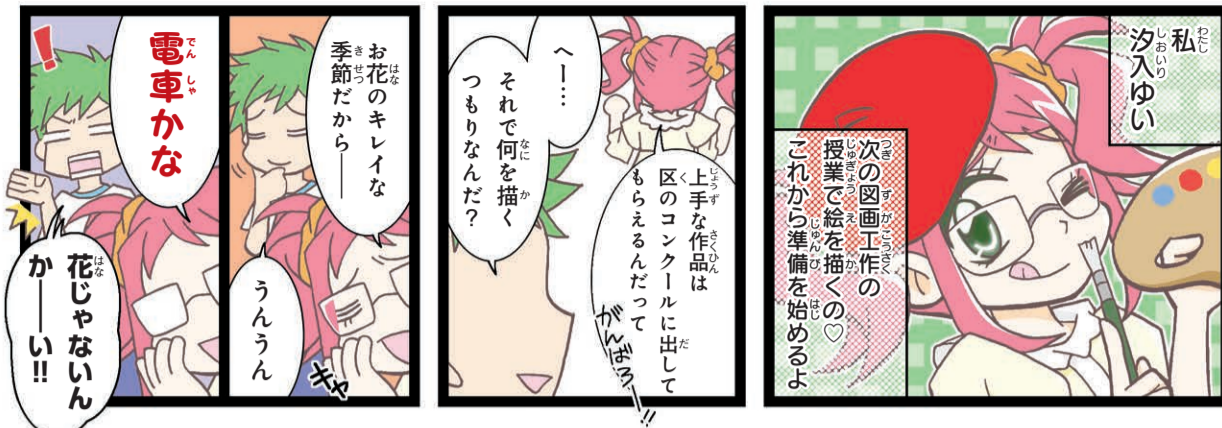


▲アスリートと一緒にプレー!

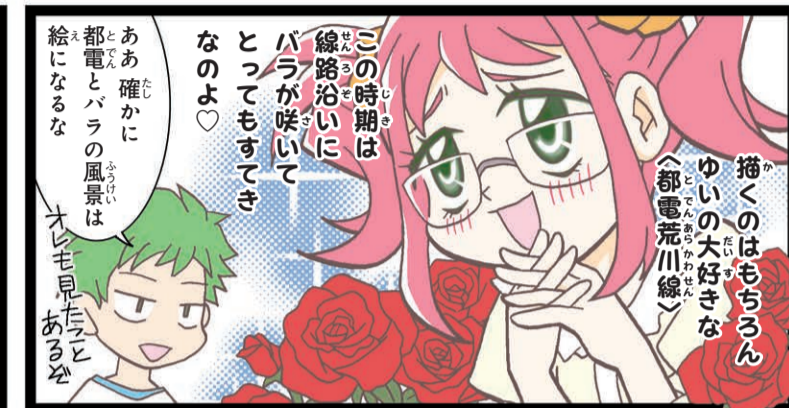


▲激しいバトルが繰り広げられました

作・かずき伊緒



あらかわ少女☆ゆいちゃん



あらかわ 今昔ものがたり
【あらかわの歴史と伝説】

その124 小林一茶さん! ごろ寝して初夏の景色を詠む

刀禰の帆が寝ても見ゆるぞ青田原
田植えを終えたばかりの広々とした田んぼを「青田原」という言葉で詠んだ爽やかな句だね。ごろ寝しながらのんびり眺めていたものは、見え隠れする「刀禰の帆」。遠くに霞んで見える利根川を行き交う船の帆のことだよ。

これは、文政7年(1824)に小林一茶さんが詠んだ句。一茶さんは、江戸時代後期の有名な俳人だ。信濃国(今の長野県)の人で、全国を旅してたくさんの俳句を詠み、江戸に何度も来ていたんだって。

ところで、一茶さん、どこからこの景色を眺めていたのかな? それはね、江戸の名所「日ぐらしの里」(西日暮里三丁目)の本行寺だ。高台にあって、境内からの眺めが素晴らしいお寺でくつろぎながら詠んだ句なんだよ。

「陽炎や道灌どの物見塚」の句
本行寺といえば、室町時代に江戸城を築いた武将・太田道灌さんの「物見塚」があったお寺と

【問合せ】荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234
執筆 野尻さん

して知られているね。立派な山門をくぐると、「陽炎や道灌どの物見塚」の句が刻まれている大きな句碑がある。これも本行寺で一茶さんが詠んだ句だよ。どうして、一茶さんは本行寺に立ち寄ったんだろうね。

俳句グループが集う本行寺

この頃の本行寺のご住職は、日桓上人。一瓢という号を持つ俳人で、俳句グループの取りまとめをしていた。本行寺境内が活動の本拠地で、ここで何度も句会が開かれたんだよ。その一人が、一瓢さんのお友だちの一茶さん。その他、一茶さんを応援していた夏目成美さんなどのたくさんの俳人が本行寺に出入りし、まるで俳句サロンのようだったんだ。一瓢さんは、全国の俳人の句を集めて『物見塚記』を出版した。約390人の句が収められているんだよ。

境内にある「一茶留錫の処」の句碑には、一茶さんの「刀禰の帆」の句に、一瓢さんの「菜の花としりつゝのむやつるべから」の句が添えられているんだ。まるで俳句友だちの友情の証のようだね。



「一茶留錫の処」の句碑 (本行寺)